

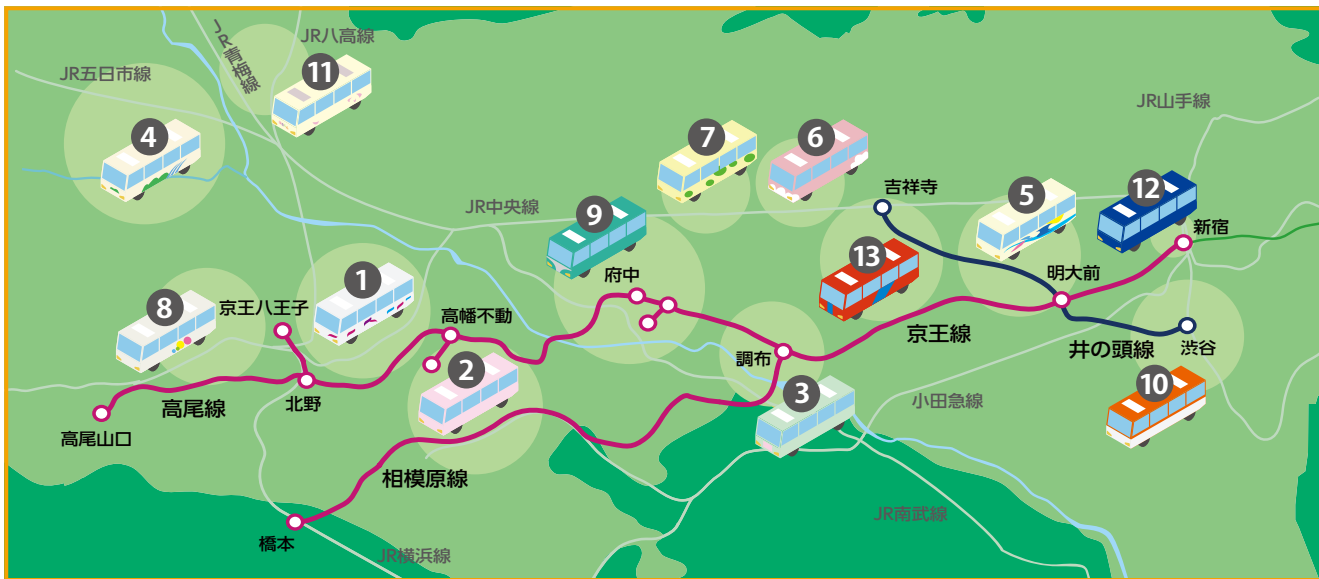


地域社会・行政との連携

[沿線自治体との連携]

■ コミュニティバス

東京都内では、地方自治体を中心となって、コミュニティバス路線を開設しています。京王電鉄バスグループと西東京バスは、利便性の高い街づくりに貢献するため、以下のバス路線を受託・運行しています。



■ コミュニティバスの運行受託状況

名称	行政	運行	開始年月	名称	行政	運行	開始年月
① 日野市ミニバス	日野市	京王電鉄バス	1986年 8月	⑧ はちバス	八王子市	西東京バス	2003年 3月
② 多摩市ミニバス	多摩市	京王バス南	1997年 11月	⑨ ちゅうバス	府中市	京王バス中央	2003年 12月
③ 調布市ミニバス	調布市	京王バス東	2000年 3月	⑩ ハチ公バス	渋谷区	京王バス東	2004年 9月
④ るのバス	あきる野市	西東京バス	2000年 10月	⑪ はむらん	羽村市	西東京バス	2005年 5月
⑤ すぎ丸	杉並区	京王バス東	2000年 11月	⑫ 新宿WEバス	新宿区	京王バス東	2009年 9月
⑥ CoCoバス	小金井市	京王バス中央	2003年 3月	⑬ みたかシティバス	三鷹市	京王バス東	2012年 3月
⑦ ぶんバス	国分寺市	京王バス中央	2003年 3月				

■ PFI事業

PFIとは公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金やノウハウを活用することにより、公共サービスの提供を行う事業手法です。

東京都のPFI事業として多摩地域ユース・プラザ整備等事業を

京王ユース・プラザが受託し、都立高校を改修、2005年に高尾の森わくわくビレッジを開館しました。その後2015年には、多摩地域ユース・プラザ運営等事業を受託し、引き続き施設の運営および維持管理業務を実施しています。



高尾の森わくわくビレッジ

物件名	開業年月	主な業務活動
高尾の森わくわくビレッジ	2005年 4月	運営全般・施設維持管理など
杉並公会堂	2006年 6月	施設維持管理・イベントなどの企画運営
ルミエール府中	2007年 12月	施設維持管理・窓口運営
東京地方・家庭裁判所立川支部	2009年 3月	施設維持管理
稲城市立iプラザ	2009年 10月	施設維持管理

【中部地方の自治体との連携】

中央道の高速バスエリアの関係自治体や事業者と連携して、新たな広域観光ルートづくりや高速バスのフリーきっぷ(企画乗車券)の販売、新宿の観光案内所を活用した観光情報の提供等を行うことで、地域の魅力を高め、地域活性化に貢献しています。

■ 中部地方インフォメーションプラザin京王新宿

2016年7月、多くの訪日外国人が来訪する新宿駅の「京王モール」内に中部地方の自治体等が集結した観光案内所を開業しました。

この観光案内所を「中央道を主体とした広域観光ルート(三つ星日本アルプスライン)」の拠点として、岐阜県・長野県・山梨県の自治体等と連携し観光情報を発信するとともに、お得に中部・北陸地方へ旅行ができる高速バス乗車券や旅行商品の販売などを行っています。

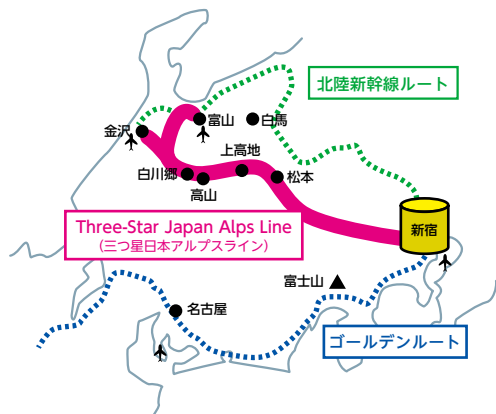


中部地方インフォメーションプラザin京王新宿

■ 三つ星日本アルプスライン

(英語名: Three-Star Japan Alps Line)

中央道を主体に高速バスや地域の路線バスを使って新宿と中部地方を旅行することができる広域の観光ルートを「三つ星日本アルプスライン」と名付け、地域の観光産業の活性化に貢献しています。



三つ星日本アルプスライン

■ ホームページ、Facebook

中部地方インフォメーションプラザin京王新宿のホームページでは、日本語、英語、中国語(簡体字)、中国語(繁体字)で、Facebookでは、日本語、英語、中国語(繁体字)での情報案内をしています。中部地方のおすすめエリアの観光スポット情報やイベント情報、高速バスのお得なきっぷの情報などを発信しています。

■ 里地里山

京王路線の里地里山の風景や自然の素晴らしさを知っていただく目的で発行している冊子「里地里山を歩こう」について、2016年度は飛騨地方の散策マップを加えて紹介しています。高山市丹生川支所、飛騨市役所、下呂市役所にコースの選定などについてご協力いただき、それぞれの環境保全活動についても紹介しています。



里地里山を歩こう冊子

VOICE

協力して
飛騨地方の魅力を
伝えていきます



高山市 商工観光部長

高原 恵理 様

広域観光ルートにより交通の利便性が向上しただけでなく、「中部地方インフォメーションプラザin京王新宿」の開設により飛騨地方の旬で魅力満載な最新情報をご紹介いただくことができ、中部地方と首都圏を結ぶ繋がりが強くなったと感じています。

また、「里地里山を歩こう」の冊子では、住民も気づいていなかった飛騨の原風景を散策するコースを再発見いただき、自慢の風景を守る活動への励みになりました。

今後も、海外からのお客様がストレスを感じることなく日本の観光を楽しんでいただけるよう、より多くの情報のご案内をお願いします。